

フランスのスタートアップ事情

兵庫県パリ事務所 所長 大江 伸一郎

フレンチテックは「赤い雄鶏」が目印

フランスでは、産業育成と雇用対策を目的に、2013年から国主導によるスタートアップ企業支援策「フレンチテック」が進められています。

赤い雄鶏が目印のロゴマーク（当欄下）をご存知の方もいらっしゃるのではないのでしょうか？このマークを旗印に、スタートアップエコシステム（＝スタートアップ支援の仕組み）をブランド化し、フランスを世界に冠たるスタートアップ大国へ成長させようというフランス政府の取組みです。

こうした挑戦が功を奏し、2021年のフランスへのベンチャーキャピタルの投資額は、前年比約2倍に伸張したとされています。



（出典：la french techホームページ）

されるこの巨大イベントは、コロナ禍による2年間のブランクを経て今年6月に再開され、9万人以上の来場者を集めました。大企業とスタートアップ企業の協業（オープンイノベーション）のショールームとしても注目されています。

今年は日本からJETROがJ-Startupのブースを開設し、そこに日本のスタートアップ企業12社が出展していました。



（写真左：駅舎を感じさせる天井が特徴的な Station F）



（写真右：Viva Technology での JETRO ブース）

代表的な「Station F」と「Viva Technology」

フレンチテックには、フランス政府によるスタートアップへの補助金等多くの取組みも含まれますが、象徴的なものに民間資本による巨大インキュベーション施設「Station F」があります。

その名のとおり、かつては駅舎だった巨大な建物を改装した施設で、現在は1,000ものスタートアップが入居。それをサポートするプログラムも数多く実施しています。また、一般参加が可能な施設案内も毎週開催しています。（英語での案内コースも有ります）

もう一つの特徴的な取組みとして、欧州最大のスタートアップ・テック系イベントと称される「Viva Technology」の開催が挙げられます。パリ市内の大型展示施設で毎年開催

フランスでのネットワーク構築を進めています

兵庫県では、欧州でのスタートアップ支援にも取り組んでいます。今年9月には、県と神戸市のスタートアップ支援担当者が県内スタートアップと共にパリ市内のインキュベーション施設を訪問し、意見交換を行いました。当事務所は、こうした関係先とのネットワーク構築をサポートしています。

また、今年新設した「ひょうご国際ビジネスサポートデスク・ドイツ」には、日本と欧州のスタートアップエコシステムを繋げるアクセラレーター「Crossbie」の山本様に着任いただきました。頼もしいドイツデスクにご協力いただきながら、県内スタートアップ企業の皆様のフランス・欧州展開を支援させていただきます。

ひょうご海外ビジネスセンターは、兵庫県が世界4か所に設置する兵庫県海外事務所と連携して、県内企業の海外ビジネス展開を支援しています。本通信は、各海外事務所から寄せられる現地トピックスをお届けするものです。

【発行 公益財団法人ひょうご産業活性化センター ひょうご海外ビジネスセンター】

兵庫県海外事務所通信バックナンバー：<https://www.hyogo-kaigai.jp/officenews/>